

会 議 録

会 議 名 (審議会等名)	令和3年度第1回小金井市廃棄物減量等推進審議会		
事 務 局 (担 当 課)	小金井市ごみ対策課		
開 催 日 時	令和3年11月4日(木)		
開 催 場 所	小金井市 中間処理場		
出 席 者	委 員	<出席者：12名> 渡辺会長・大江委員・岡山委員・石田委員・勝又委員・岸野委員・ 黒須委員・齋藤委員・多田委員・堀越委員・石原委員・林委員 <欠席者：3名> 土屋委員・山田委員・波多野委員	
	事 務 局	深澤ごみ対策課長・花野ごみ処理施設担当課長・府川減量推進係長・高田清掃係長・高橋施設係長・高花	
傍聴者の可否	可	傍 聴 者 数	2
会 議 次 第	1 開 会 2 報 告 3 議 題 (1) 家庭用生ごみ減量化処理機器購入費補助金の見直しについて (2) 令和4年度一般廃棄物処理計画について(諮問) (3) 令和4年度ごみ・リサイクルカレンダーの表紙絵の選考について 4 その他		
会 議 結 果	別紙審議経過のとおり		
提 出 資 料	別添のとおり		
そ の 他			

(審議過程) 主な発言等

渡辺会長	これより令和3年度第1回小金井市廃棄物減量等推進審議会を開催する。 では、配布資料と報告について事務局に説明を求める。
府川減量推進係長	(配布資料確認)
深澤ごみ対策課長	(「報告事項」について説明)
花野ごみ処理施設担当課長	(「報告事項」について説明)
渡辺会長	事務局からの報告に対して意見・質問はあるか。
林委員	二枚橋の不燃・粗大ごみ積替保管施設の建設にあたり、何か汚染があったと聞いているが。
花野ごみ処理施設担当課長	令和3年1月に本体工事を着工する予定だったが、着工前に法律で定められた土壌調査を行ったところ、1か所から基準値を超える汚染物質が見つかったことから、その部分を除去したということである。 その後も、地中埋設物のコンクリート塊が見つかり、その解体・撤去費用を6月市議会で補正予算として計上し、解体・撤去を行った。現在は、既に工事が進んでいる。
渡辺会長	見つかった汚染物質は何か。
花野ごみ処理施設担当課長	鉛である。
林委員	ジモティーの協定だが、協定を結んで市の広報媒体で周知というのは、具体的には市報で周知したということによいか。
深澤ごみ対策課長	市報だけではなく、ホームページ、ツイッターや分別アプリでも周知を図っている。そのほか、情報を知った市内の新聞社2社から打診があり、掲載していただいている。
林委員	広報掲示板は使用していないのか。

(審議過程) 主な発言等

府川減量推進係長	広報掲示板は使用していない。
多田委員	似たようなサービスがある中で、なぜジモティーを選んだのか。
府川減量推進係長	<p>何社か比較検証したが、どこも売買取引が成立すると、出品者が出品料のようなものを支払わなければならなかった。さらに、取引が成立すると基本的には配送でのやり取りになるが、そこでのトラブルも懸念していた。しかし、ジモティーについては、基本的にバナー広告が収入源になっており、売りたい側、買いたい側双方から料金を徴収するということがなかった。</p> <p>さらに、最終的な受渡しは基本的には地元で直接・対面で取引できるというところもメリットであり、大型系家具などを多数扱っているということからジモティーを選定した。</p>
岡山委員	世田谷区もジモティーと協力して事業をされるということだったが、あちらと同様に、どこかのスペースを使って不要品の受渡しをするというイメージでよいか。
深澤ごみ対策課長	世田谷区では、あくまでも実証実験という形で3月まで実施するようである。評判がいいというのは聞いているが、全て持ち込めるわけではないようだ。ただ、無償で持ち込めるものがあり、世田谷区とジモティーで場所などいろいろと協議してスタートしたと聞いている。今は非常に立て込んでいるようだが、視察してみたいと考えている。
岡山委員	現時点では、協定とはいってもジモティーの機能だけで進んでいるようだが、二枚橋の粗大ごみ積替え保管施設の中に粗大ごみに関してリユースできるようなものをつくるということが計画されているので、いずれはそこに向けた一つの間目標点としてあるとよいと思う。
渡辺会長	世田谷区は場所を貸しているだけではなく、世田谷区が出品しており、受け渡しも世田谷区の施設になる。預かっているという形なのだろう。

(審議過程) 主な発言等

林委員	しかし、金銭のやり取りが出てくるので、区が預かるのはなかなか難しいのではないかと。
岡山委員	練馬区の場合、幾つかのセンターの中で練馬区が販売している。だから、できないことはないのではないかと。
深澤ごみ対策課長	やり方はいろいろとあると思うが、いまは実証実験中である世田谷区をもう少し見させていただきたいと考えている。
渡辺会長	私もジモティーを見ていたら、出品者は世田谷区となっていたので、頑張っているなという印象を受けた。値段も相場よりかなり安いくらいだったので、引合いは相当あるのではないかと考えた。言ってみれば、粗大ごみとして回収したものを、まずは一旦ジモティーに出品して、引合いがなければ処分する、ということではないかと。
林委員	そうすると二枚橋の施設で家具を修理するという話が以前から出ていたが、修理した家具は、例えばジモティーに出品する、ということも可能ではないかと。
多田委員	ジモティーとの協定は、現在リサイクル事業所が閉じていることを受けた、窮余の策なのか。
深澤ごみ対策課長	そうではない。基本計画で「リユースルートの構築」ということを謳っていることから、二枚橋の施設でリユース事業を始めるということである。粗大ごみとして排出されたものを修繕して展示販売すると同時に、くるカメファクトリーという名称を予定しているリサイクル工房で、いろいろな事業や、作業、あるいは環境学習を実施していく。リサイクル事業所が終了したからといったことは全く関係ない。今後もほかのやり方でどんどん展開していこうと考えている。
多田委員	くるカメファクトリーの機能を補完する政策みたいなイメージということか。

(審議過程) 主な発言等

深澤ごみ対策課長	補完というわけではない。リユースに関しては、ルートは複数あると考えている。補完というよりも、一つ一つ、個々にそれぞれがルートとしてやっているというような形を考えている。
渡辺会長	二枚橋に関しては、それが完成したら今度は中間処理場に取りかかるという、流れか。
花野ごみ処理施設担当課長	二枚橋の施設が竣工したら、現在、中間処理場で行っている不燃ごみ、粗大ごみの処理などは二枚橋の施設で積替保管という形で行っていき、中間処理場の工事に取りかかることができる。
渡辺会長	出だしで少し遅れているので、全体的にそれが後ろにずれるというような感じになるのか。
花野ごみ処理施設担当課長	現在、どのぐらいになるかということ、再度、検討を行っている状況である。
渡辺会長	ホームページに、子供向けの教材を掲載したということだが、これらはたいへんな力作で大いに活用していただきたいと思うが、引合いや、どれぐらい閲覧されているのかといったような統計は取っているのか。
林委員	これは、子どもたち全員に配布するといった形で実施しているのか。
事務局	ホームページに掲載してダウンロードできるようにしているほか、私立を含めた市内各学校長宛てに、現物と一緒に紹介通知を送付している。
林委員	授業で活用したりする、というのであれば別だが、一般に広く見てもらうためには、どこかに置いてあってちょっと見るといった機会がなかなかないと、知らないという人のほうが圧倒的に多いのではないかと。予算が必要かもしれないが、広めるためには最低限市民の目に触れるようなところに少しでも置くと

(審議過程) 主な発言等

深澤ごみ対策課長	いうことが必要だと思う。 コロナ禍で、なかなか学校で出張講座を行えないということがあり、そうすると、ある程度インターネットのような情報通信技術を使っていかなければならないため、今回はそのような形で行っている。
渡辺会長	ほかに、事務局からの報告に対して意見・質問はあるか。ないようなので議題に入る。 本日の審議会では、「令和4年度一般廃棄物処理計画」についての諮問を受けることになっている。後ほど事務局から説明があるが、まず始めに諮問を受けたいと思う。
府川減量推進係長	本来ならば市長からお渡ししなければならないが、公務の関係で代理として深澤ごみ対策課課長より諮問書をお渡しする。
深澤ごみ対策課長	(諮問書受け渡し)
渡辺会長	それでは家庭用生ごみ減量化処理機器購入費補助金の見直しについて、事務局に説明を求める。
深澤ごみ対策課長	ごみの減量化を進めるため、平成14年より、家庭から排出される生ごみを自家処理するために生ごみ減量化処理機器を購入される市民に対し、生ごみ減量化処理機器購入費補助金を交付している。当初は補助率を1/2としていたが、平成19年度から広域支援が始まったことで、さらなる可燃ごみ減量の必要となり、補助率と補助上限額を引き上げ、現在に至っている。ここで、浅川清流環境組合の可燃ごみ処理施設が本格稼働を開始し、可燃ごみの処理に一定の目途がたったことから、補助率及び補助上限額の見直しをしたいと考えている。詳細については、引き続き減量推進係長からご説明させていただく。
府川減量推進係長	(「家庭用生ごみ減量化処理機器購入費補助金の見直しについて」説明)

(審議過程) 主な発言等

渡辺会長	この件について意見・質問はあるか。
黒須委員	<p>ポスティングされた販売業者のチラシを見ると、安価で手に入ると考えて購入してしまうので、購入前のことよりも、購入後のほうが大切なのではないか。</p> <p>購入後一定期間経過した人に対して使用頻度や使用量といったことを調査しないと、補助金として相当な費用がかかっているにも関わらず、本当に有効に使われているかという対効果が全く見えない。やはり、アンケートなどで購入後どうしているのかということ調べるのが大切だと思う。</p>
深澤ごみ対策課長	購入後2年を経過した方を対象にアンケートを実施している。例えば、平成30年度に購入された方については、令和2年度にアンケートを実施している。当然、全員が回答して下さるわけではないが、利用状況や利用頻度、中止した理由、生ごみ発生量の変化や臭気についてなど、様々な質問をしており、これに基づいて一定は把握させていただいている。
林委員	<p>資料についてだが、令和2年4月より浅川清流環境組合が本格稼働して可燃ごみ処理に一定のめどがたったから補助金を減らすというふうに伝わると、もう小金井市はごみの減量をあまりしなくてよい、となりかねない。ここはもう少し表現を考えたほうがよい。</p> <p>次に、手続きの見直しについて、事前申請をなくしてしまうと、予算に限りがあるにも関わらず、皆が一斉に購入してしまい、予算措置との整合性が取れなくなるという不安がある。</p> <p>最後に、補助率について、国分寺の補助金額の上限補助率を見ると上限3万円で補助率は3分の2になっている。3市の市民会議に出ていて、他市と比較すると小金井市が補助が高すぎるというのは確かに思ったが、今度は国分寺より低くなるのが少し気になる。</p>
府川減量推進係長	まず資料の表現について、限られた枠の中だったためこういった表現になっているが、確かに林委員の言われたとおり、周辺住民の方や関係者の方々というところも当然意識しなければならぬため、何かしら追記させていただく。

(審議過程) 主な発言等

林委員	浅川が稼働したことで目途がたった、ごみ非常事態宣言もスローガンを見直した、だから補助金を下げるといふことにはならない、ということである。何と言われてもやる、だから補助金を下げるといふような文案を考えていただきたい。
岡山委員	私もそう思う。基本計画ができたから、基本計画に則って、といふような流れの方がよいのでは。
府川減量推進係長	<p>もう燃やすごみは減量しなくてもよいといふ話には絶対にならないにも関わらず、もう減らさなくてよいといふ誤解を与えてしまうことは避けなければならないので、表現をかえさせていただく。</p> <p>それから、予算との関係性について、来年度から変わるとなると今年度の駆け込み需要が想定される。万が一予算が不足した場合には、何とか確保していきたいと考えている。</p> <p>次年度については、一定の予算は確保する予定であるため、不足するといふことはあまり想定していない。他の自治体を見ると、予算がなくなった時点で終了といふ案内をしているところもあるので、現時点では、同様に、予算がなくなるから終了する、といふような周知を行っていかうと考えている。</p>
林委員	事前申請がなくても、そういう措置で乗り切るといふことか。
府川減量推進係長	現行制度では、まず事前申請を承認し、承認後30日以内に購入していただき、購入後60日以内に申請していただくとしており、3か月ほどの期間しかない。今回の新制度が始まると、途中で予算がなくなるといふことがあるかもしれない。その場合、現行制度のような3か月という期間では成り立たず、予算が無くなって申請できなくなるということもあり得るため、次年度での申請を可能とするか否かを含め、現在調整を図っているところである。
林委員	先ほど黒須委員が示されたチラシは、非常に小金井市に特化している。事前申請がいらなくなると、安易に購入してしまうことにつながり、結果として安易な消費行動を促す動きにな

(審議過程) 主な発言等

	<p>りかねない。逆にいうと、申請が必要であれば、購入の前に本当に必要なかどうか考えることにつながる。やってみないとわからないが、安易に購入した結果使わない、という人が出てきかねない。それを少し危惧している。</p>
多田委員	<p>16市の補助上限の平均を出したところ、2万3,625円だった。個人的には、電動に関しては補助上限額と補助率をもう少し下げてもよいのではないかと考えている。逆に、手動攪拌や堆肥化容器は環境に優しいので、こちらのほうはもう少し補助上限額と補助率を上げてよいと思う。</p>
深澤ごみ対策課長	<p>確かに16市の平均ではその金額になる。しかし、市としてはあくまでも平成19年度以前の水準に戻させていただきたいと考えている。平成19年4月から広域支援ということがあったため、補助上限額や補助率をこれだけ増やしたが、ごみ非常事態宣言から新たなスローガンに替わり、今後、基本計画に基づいて実施していくという一つの区切りとして、ここで元の制度に戻そうというのが我々の考え方である。</p>
石田委員	<p>この文章は、委員の皆さんが言われるように、目途がたった後でもよいので、19年度の内容に戻しますと明言すればよい。今までの特別だただけで、元に戻すだけだということは、市民は理解しているのだから、そのうえで、普及を促進するためには手続の簡素化も併せて検討していきます、といったことを書けばよい。</p>
渡辺会長	<p>多田委員が言われるように、確かに電動式はかなりエネルギーをかけて水分を蒸発させる。おそらく二酸化炭素収支的にいうと、圧倒的に多くの二酸化炭素を排出しているということになってしまう。そういう意味では、手動に誘導するという考察はあってよいと思う。環境全体を考えたら「電動は環境に負荷を与える」「手動は環境の負荷を減らす」というように、かなり性格が変わってくるので、そのへんは検討されてよいのでは。</p> <p>それから、今まで一応事前審査があったわけだが、チラシを見て購入すれば必ずお金が返ってくるという仕組みになっていると、生ごみ処理機という名称であれば何でも適用になると</p>

(審議過程) 主な発言等

多田委員	<p>いう、いい加減な機械が出現するといった恐れがある。</p> <p>しかし、資料のとおりを実施されるとすると、例えば今まで5万円の補助だったものが3万円になるということで、結構ブレーキになるのではないか。</p>
渡辺会長	<p>そこはブレーキになるかもしれないが、いい加減な機械が出てくることのブレーキにはならない。生ごみ処理機ということであれば、例えば、砕いて下水に流すだけのディスポージャー型装置であっても、生ごみ処理機となる。ただ、下水処理的に考えると極力避けたいということになっていると思う。きっちりこういうものに補助する、という定義をはっきりさせておかないといけないと思う。</p>
府川減量推進係長	<p>交付要綱があり、その中では、補助できるものの定義がある。家庭用電動生ごみ処理機、手動攪拌、堆肥化容器として、それぞれの定義が明記されており、例えば、電動の生ごみ処理機の場合は「生ごみを熱によって乾燥して、また有用な微生物を利用し、発酵分解することで容量を減少させるとともに、堆肥化させる電気式の機器」としている。</p>
林委員	<p>実際には、現在電動と手動攪拌式の割合はどのくらいになっているのか。</p>
深澤ごみ対策課長	<p>令和2年度の申請状況は、全体で386件、そのうちの367件が電動生ごみ処理機、手動攪拌式は5件、堆肥化容器は14件となっている。手動攪拌式の生ごみ処理機は、過去5年を見てもゼロ件から5件。堆肥化容器については、過去5年で4件から14件となっている。</p>
渡辺会長	<p>そういう割合であれば、手動にもう少し誘導したほうがよい。補助額を見ると、電動を買った方が得みたいに見えてしまうというのがあるのではないかと思う。</p> <p>では、他に意見・質問はあるか。なければ次の議題に移る。</p>

(審議過程) 主な発言等

深澤ごみ対策課長	<p>可燃ごみの処理については、令和2年4月から、共同処理が開始されたことで、一定の目途がたったところではあるが、同時に事業系のごみの搬入を開始したことで、事業者に対するごみの減量を推進する必要がある。</p> <p>一方で、新型コロナウイルス感染症対策と、感染拡大予防のための「新しい生活様式」への移行という大きな社会情勢の変化が続いており、家庭から排出されるごみの種類が変化し、量も増えている。ごみ量もコロナ禍以前に戻っているとは言えず、これから冬に向けて再び感染者数が増加すれば、ごみ量の変化は避けられないものと考えられる。</p> <p>また、不燃・粗大ごみ、資源物の処理については、清掃関連施設整備基本計画に基づき事業を進めているが、新たな処理施設が稼働したとしても、施設周辺住民及び関係者の皆様の負担を少しでも軽減できるよう、より一層、廃棄物の減量に努めていなければならないことには変わりはない。</p> <p>これらを踏まえ、令和4年度小金井市一般廃棄物処理計画を策定するため、委員の皆様にご審議いただくべく、諮問をさせていただくものである。詳細については、引き続き減量推進係長よりご説明させていただく。</p>
府川減量推進係長	〔「令和4年度一般廃棄物処理計画(案)」について説明〕
渡辺会長	意見・質問はあるか。
林委員	<p>P D C Aサイクルをどのように盛り込むのか、評価するのかという議論をして2年経つが、新型コロナウイルス感染症の問題から、5年後ですらP D C Aサイクルをたてづらいということで、取りあえず令和2年度はその件の議論はせず、実施したことを淡々と記載しようということでやってきた。</p> <p>今回の令和4年度処理計画を見ると、令和3年度と同様に書かれている。やってきたこと、やっていること、それから、やれることはたくさん書き出されているし、今日の冒頭の説明にもあったように、様々な新しい取組をごみ対策課が行っているということもわかるが、それで本当にいいのか、という疑問がある。できれば、評価したものを次回あるいは次々回に報告していただきたい。</p>

(審議過程) 主な発言等

渡辺会長	<p>例えば、一般廃棄物処理計画の実施状況という表で見ると、「コロナの影響でプラごみが増えています」「粗大ごみが増えました」というように、「ごみが増えました」という話でさらっと終わらせてしまうのではなく、なぜかというもの、もう少し突っ込んだ評価というのが必要なのではないかという気がする。</p> <p>具体的に言うと、事業系の一般廃棄物の燃やすごみが令和元年から令和2年で903トン増えている。これは令和元年が544だったのに対して1,447という倍以上になっていることになる。これは、コロナの影響もあるかもしれないし、ごみの収集手数料を下げた影響もあるかもしれない。いずれにしても、非常に増えている。これを何とかしなければならぬ。燃やすごみについても、1人当たりの燃やすごみ量が増えている。それから、集団回収が減っている。これはコロナの影響とばかりも言えないのではないかと思う。</p> <p>そういうことを踏まえて、数字を見ながら、どういうことが起きているのかということをもう少し考えて、それに対する何か対策はあるか、何をもう一回力を入れてやらなければならないのかということ議論する必要があるのではないと思う。</p> <p>特に、3市の市民会議でもずっと話題となっているが、生ごみを減らさなければごみの減量はできない。だから、生ごみを減らすということは、もっと力を入れて、年度ごとの計画の中で描いて訴えていかなければならないと思うが、その辺りが盛り込まれていない。</p> <p>例えば、小金井市は他市に比べて唯一優れている点として、ごみ相談員制度があると言うと、他市の方がそんな制度があるのかと驚いてくれる。しかし、実質、ごみ相談員制度が機能していない。2年前のこの計画の中では、ごみ相談員制度を何とかしなければならぬということが項目としてあったのが、昨年からなくなっている。そういうところが、少し欠けているのではないか。特に生ごみの減量とか、そういったものにも注目した計画にしてほしいと思う。</p> <p>確かに、令和2年度で、前年に比べてかなり増えたということでどう対応するかというのがちょっと入ってもよさそうな感じはする。事業系が増えるというのは、ある程度織り込み済みだったとは言えるのではないか。</p>
------	--

(審議過程) 主な発言等

	<p>プラスチックごみも同様だが、燃やさないごみも非常に増えている。集団回収は減っているといったことは、やはり「認識している」として、原因はこういうことが考えられて、こういう対策を打っている、という話があってもよいのではないか。</p>
岡山委員	<p>これは来年の計画なので、令和2年度の分析を事細かに書くというのは少し違うのではないかと思う。ただ、確かにこの中で事業系のところだけが1,000万トン増えるということは、もともと織り込み済みのこととはいえ、ものすごい上がり方である。こちらとしては予測どおりだったとしても、事業系がこんな増え方をすることは考えにくいことから驚かれると思うので、説明として記載してあったほうがよい。</p>
渡辺会長	<p>家庭系の燃やすごみと燃やさないごみは、コロナの影響なのだろうが、かなり増えている。</p>
岡山委員	<p>推測はできる。私も昨年東京で分析調査を実施したが、プラスチックごみは確かに増えているし、ペットボトルもとても増えたのは間違いない。</p>
林委員	<p>食品廃棄物を減らしましょうというのはよいが、どこがどのぐらい増えているのかということは、やはり何かしらかのデータがあって、注力しなければならない場所というものが洗い出されてくると思う。</p>
岡山委員	<p>令和元年と昨年で家庭系の燃やすごみもとても増えているが、その中で生ごみが増えたかどうかは、組成調査をやらないと分からない。</p> <p>生ごみのことは林委員の言われるとおりで、これはむしろ来年度の計画であるから、先ほどの生ごみ処理機の補助も含め、もう一度、食品ロスはもともと出さないこと、出てしまったものについては可燃ごみにしない、ということは明記したい。</p>
渡辺会長	<p>先ほど組成調査の話があったが、3Rを推進するための調査研究ということで組成調査をやっていますと書いてあるが、これは恐らく施設運用のための、維持・管理のための組成分析の</p>

(審議過程) 主な発言等

府川減量推進係長	<p>実施をやったということで、3Rを意図した組成調査というものはやっていないのではないかと。であれば、ここに記載してはいけないと思うがいかがか。</p> <p>組成分析は例年実施しており、今年度はこれから実施する。これまでは、例えば、生ごみの関係は「厨芥類」としてまとめていたが、今回からは、その中でも食品ロスの項目というのを新たに付け加えている。また分析内容が分かった段階で皆様にご報告させていただく。</p>
事務局	<p>昨年は例年通りの検査項目だったが、今年度は岡山委員よりご意見をいただいていたため、未利用食品など新たな項目を少し増やした。予算がかかるため、基本計画策定に際して行ったような詳細な分析を行うことはできないが、現在の予算範囲内で、未利用食品と一般的なレジ袋について、項目を分けた。この計画は今年度の実績と来年度の計画を記載するものであり、ご指摘の内容については、今年度中に実施するものであるため記載している。</p>
岸野委員	<p>集団回収について、自分も集団回収に参加しているが、最近では、新聞も雑誌も購読しないとといったことで回収量が減っている。例えば、高齢者が亡くなると本などが出るが、それ以外では、確かに減っているし、これからもおそらく減るだろう。増えることはまずないと思う。</p>
林委員	<p>ただ、日野市や国分寺市に比べると、やはり一番少ない。子供がいる家庭などで、このコロナ禍で集団回収やりませんというのは、昨年も今年もあったので原因としてある程度はあるが、全体的に小金井市では、どんどん下がりがつつある。</p>
多田委員	<p>あとは、町会、自治会の組織率が下がってきている。また、集団回収だと、ある一定の時間に集まらなければならないということになり、密になるということもあって減っているのではないかと。集団回収以外はすべて増えているわけだし、自分の家庭で個別に出したほうがよいと考えたのではないかと。</p>

(審議過程) 主な発言等

石田委員	<p>例えば、3 ページの一般廃棄物の令和 2 年の数値が出ているが、これはどう見ても増えている。平成 3 0 年を最小値としてみた場合、令和 2 年ではほとんどが増えている。これがコロナのせいだというのは誰でも分かるところだが、今年を入れると 3 年間は、コロナのせいで増えただけであり、それがなければ、例えば平成 2 8 年から 3 0 年までに減ってきたようなトレンドでずっと減っていくという設定で考えているのか。あるいは、世の中の動きが変わってきているから、改めてもう一度数値を見直さなければならないと考えているのか。</p>
渡辺会長	<p>目標値の考え方は 1 0 ページにあるが、令和 2 年度が 3 9 0 グラムで、それを 3 5 5 グラムに真っすぐ減らすということで減らしていくと、令和 4 年はこの値になるという算出根拠なのか。一応、前年度と令和 3 年上半期の実績量を元に算出しているということで、令和 3 年上半期のデータを示すことはできるのではないかと。</p>
府川減量推進係長	<p>令和 4 年度の推計値については、今年度見込量とイコールになっている。3 5 5 という令和 1 2 年度の数値は、基本計画で目標設定した数値だが、途中でコロナ禍という状況となり、基本計画どおりにはいかなくなってきている。そのため、緊急措置的に、単年度の目標値として次年度の数値を算出し、設定している。そうした中で、直近の実績を踏まえて今年度の実績見込を算出し、それを令和 4 年度の数値とさせていただいた。コロナの状況が落ち着かず、第 6 波が出るかもしれないという方向も定まってない中で、やむを得ずそのように算出している。</p>
石田委員	<p>だから、2 年度以上に 3 年度は実際増えているということか。コロナ禍で起こっている上積みがあるから増えているだけだと考えているのかどうかということである。それであれば、コロナの影響による増加分が終息すれば減るということになる。しかし、構造が変わって、今までの数値をもう抜本的に見直さなければならないと考えているのか。</p>
石原委員	<p>今の件に関連して、平成 2 8 年度からの人口動態統計はどのようになっているか。間違いなく増えているが、どのぐらいの</p>

(審議過程) 主な発言等

深澤ごみ対策課長	<p>割合で増えているのか。今後、令和12年度までに、どのぐらい増えると想定されているのか。1人当たりの数値はここで355gとしているが、全体の量としても増えるのでは。</p> <p>小金井市の場合、2030年ぐらいまでは人口が増えるという話は聞いている。</p>
岡山委員	<p>それでもこれは計画値であり、基本計画のときに目標値として算出したものである。昨年、今年の実績から考えると非常に少ないが、そこまで下げていかなければならない。</p> <p>石田委員が質問されたかったのは、10年計画でつくっているが、多分5年で絶対見直しをする、せざるを得ないのではないか、ということだと思う。</p>
石田委員	<p>生活様式が変わったことを組み込んで5年目に見直す必要があるのか、あるいは、今は特別な状況でありコロナ禍が終息すれば解消するから、5年目に大幅な見直しをしなくてもよいと考えているのかということである。</p>
府川減量推進係長	<p>新しい生活様式ができたことによって、テイクアウトや出前を利用する機会が増えているなど、廃棄物にも大きな影響が出ており、ごみ量が定まらないという現状では、今は注視していかざるを得ない。</p> <p>しかし、現時点では当然ながら、ある程度方向が見えた中で現行の基本計画の目標設定というものやはり見直していく必要性はあると考えている。国からも、大きな社会変動によっては基本計画の変更をするよう示されているので、それに基づいて一部改定を行うといった可能性はあると思っている。</p>
渡辺会長	<p>とりあえず、これは令和4年の計画なので、そういう長期的な話は載せる必要はないと思うが、令和4年の数値設定の根拠というのはあってもよいと思う。</p>
林委員	<p>もう一つ、プラごみに関して、ごみ相談員の立場でいろいろな市民の方から相談を受けているが、回収したその後のことを知りたいということがよくある。例えば、どこまで洗って出し</p>

(審議過程) 主な発言等

	<p>たらいいかという類いの質問にもつながってくるのだが、適正処理方法のプラスチックごみについて、小金井市では、容リ法対象と容リ法対象外のプラスチックを両方同時に集めている。容リ法対象外の廃プラスチックを、最終処理として「焼却後セメント化」として一部事務組合と記載されているが、これはどこで行っているのか。</p>
府川減量推進係長	一部事務組合というのは浅川である。
岡山委員	容リ対象以外の廃プラについては、基本的に可燃ごみだから、結局可燃ごみとして燃やすことになっている。つまり、浅川の焼却灰は全てエコセメント化されているので、一部プラスチックもその中のフローに入っている。
林委員	基本的には浅川で燃やされているということであれば、容リ対象以外は可燃ごみに入れても同じではないのか、という疑問が出てくる。
岡山委員	国の流れとして、まもなく法律が変わり、容リプラ以外のプラスチックもリサイクルすることになる。
林委員	回収してリサイクルしようというのと、燃やそうというのはだいぶ違う。小金井は今まで容リプラ以外と一緒に集めていたから、そういった中で、どう扱っていくかというのは結構大きな課題である。
渡辺会長	今までは広域支援を受けていたので、プラスチックは全量が民間施設に行っていたわけである。
林委員	浅川で燃やしているというのは、非常に驚きだった。そういうことが分かると、相談員として、例えば、容リプラ以外のプラスチックをプラごみにきちんと分別してくださいと、洗って入れたほうがいいですよという動機付けがとても弱まってしまう。これは小金井市に限ってのことではないが。

(審議過程) 主な発言等

岡山委員	確かに今は可燃ごみになっているが、来年からプラスチック再生法が施行される。他市はこれから全て実施しなければならないが、対して小金井市は既に仕組みが出来上がっているのので、むしろ先取りしているということである。
林委員	質問されたときに、本当に分けなくてはならない。分別してプラごみに入れているが、実はそれらははじかれて浅川で燃やされているということを知ってしまうと、何で一生懸命プラごみ袋に容り対象以外のプラスチックを入れているのかなと思ってしまう。
石田委員	いずれにしても変えなければならないのだから、過去に戻って、あるいは今現在の状況で一緒にしてよいという話では全くない。当然やらなければいけないことになっている。
岡山委員	今のやり方は、このまま続けなければならない。ただ、現状では、容り以外のプラごみが焼却する流れに入っているということである。
林委員	そういう意味でいうと、21ページと22ページのプラスチックごみの処理場所というのは修正する必要がある。
岡山委員	法令自体は来年の施行であり、絶対にリサイクルしなければならないことになる。
渡辺会長	ただ、法律が多分来年4月に施行になるが、準備期間があるため、実際に適用されるのはもっと先になる。
林委員	オリックス資源循環株式会社は燃やして溶かしているが、そちらに搬入するのはよいのか。
岡山委員	リサイクルの方法としては燃料化するというのもある。
渡辺会長	浅川でも発電して燃料としているが、一応オリックス資源循環株式会社のほうが、浅川で焼却するよりも熱効率がよい。

(審議過程) 主な発言等

岡山委員	<p>19ページで有害ごみと燃やさないごみの整理をしたということだが、確かに二次電池は大変危険なので、危険ごみとして分けたほうが良いと思う。ただし、「電池を外せないもの」という書き方では分かりづらいと思うので、もう少しここはしっかり書いたほうがよいのではないか。絶対に、外側がプラスチックだからといって、プラスチックごみに製品として入れちゃっている方は多いと思う。それが可燃ごみに入ると、パッカー車に入って、大きな火災を起こす。書きようとしては、例示があるほうが良いと思う。</p>
石田委員	<p>電池が入っているのが分からないということもある。物によっては電池が2系統になっていて、普通の電池は取り出して捨てたと思ったら、もう片方が出てくることもある。</p>
渡辺会長	<p>まだ他に意見もあるようなので、次回継続して審議を行う。 次に、令和4年度ごみ・リサイクルカレンダー表紙絵の応募作品の選考に入る。</p>
高田清掃係長	<p>(令和4年度ごみ・リサイクルカレンダーの表紙絵選考)</p>
渡辺会長	<p>それでは、以上をもって審議会を終了する。</p>